



検査の内容



身体計測	BMI (体格指数)	身長と体重の割合で、BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ² の式であらわされます。BMI = 22の時の体重が標準体重とされ、最も生活習慣病になりにくいといわれています。
	体脂肪率	身体に占める脂肪の割合で、皮下脂肪と内臓脂肪を合わせたものです。年齢により、若干誤差がありますが、男性25%女性30%を超えると、体脂肪率が高いと判断されます。
	腹囲	臍の高さで水平に測ったお腹周りで、男性85cm以上、女性90cm以上は内臓脂肪型肥満(メタボリックシンドローム)が疑われます。
	視力検査	5m視力測定により、近視の度合いを調べます。
	眼圧検査	眼球の内圧を調べる検査です。高値の場合は緑内障が疑われます。
	眼底検査	眼の写真を撮り、直接血管の状態を見る検査です。眼の病気のほかに動脈硬化・高血圧性変化・糖尿病性変化の有無などを確認しています。
	聴力検査	オーディオメータという機械で、低音(1000Hz)・高音(4000Hz)が聞こえるかを調べます。
	血圧測定	心臓が収縮して血液を動脈に送り出しているとき(最高血圧)と、心臓が拡張して血液を内部に満たしているとき(最低血圧)に血管にかかる圧力を調べます。どちらが高くても高血圧となります。
	肺機能検査	空気を吐く速さや量を測定して、空気を肺内に出し入れする時の換気機能を調べます。肺気腫・気管支喘息など肺の病気の有無を調べます。
尿検査	尿蛋白	腎臓や尿管などに何らかの異常が起きている場合や、疲労が蓄積しているときにあらわれます。
	尿糖	糖尿病のスクリーニング検査を主な目的として、尿中のブドウ糖の有無を調べます。
	尿潜血	尿中に血液成分が含まれているかを検査します。尿路に結石・腫瘍がある場合に現れ、健康な人でも激しい運動後に陽性になることもあります。生理中は判定に影響が出ます。
	ウロビリノーゲン	古くなった赤血球中のヘモグロビンがビリルビンに変化し、腸内で分解されて尿中に出てきたものです。陽性の時は、肝臓病や溶血性貧血が疑われます。
	沈渣	尿の沈殿物の種類や数、形態的变化を顕微鏡で検査し、腎臓・尿管・膀胱・尿道などの病気の有無を調べます。
	便潜血検査	便を採取して、血液が混じっているかを検査します。消化管に出血があるときに便に血が混じります。特に大腸がんのスクリーニング検査として用いられます。
	胸部X線検査	肺および縦隔(左右の肺の間)・胸膜・心臓の異常を調べます。
	喀痰細胞診検査	痰を採取して、顕微鏡で病的な成分が含まれていないかどうかを観察します。(+)以上の判定の場合は、精密検査が必要です。
	心電図検査	心臓が発する微弱な電気信号をとらえて波形として記録し、心臓の機能を調べます。狭心症・心筋梗塞などの心筋の異常や不整脈の有無を調べます。
	胃X線検査	食道・胃・十二指腸までの消化管をバリウムで造影し、臓器の形の変化や異常を調べます。
	胃内視鏡検査	胃カメラを口から直接十二指腸まで挿入し、画像で胃や食道・十二指腸の状態を調べます。
	腹部超音波	腹部に超音波を発信し、臓器の画像を映し出し、臓器の形や構造の変化を調べます。肝臓、腎臓、脾臓、胆のう、膵臓を見えています。
	骨密度検査	手のX線を撮影し、骨の密度を測定します。骨粗しょう症などの病気の有無を調べます。
	子宮頸がん検査	子宮頸部の粘膜や細胞を採取して、顕微鏡で観察し、子宮頸部の細胞の変化の程度を調べます。判定はベセスダシステムで表記します。
乳房検査	触診	乳房をさわって、しこりや分泌物の有無を調べます。
	超音波	超音波の画像により、しこりなどの形状や周辺の状態を調べます。
	マンモグラフィー	乳房をX線で撮影し、しこりの形状や石灰化像などの病変の有無を調べます。

2015.7 保健指導課 改定 6/28受診分より採用
子宮細胞診検査・クラス分類の説明を、子宮頸がん検査・ベセスダシステムとした

2018.7一部改定